

'97 木製サッシフォーラム

- フェンスタターク イン 北海道 -

開催にあたって

世界的に見て、住宅で注目される課題は変化しています。少し前までは、省エネルギー問題でした。最近、多く取り上げられる課題は、環境共生、環境改善でしょう。特に、炭酸ガス濃度の上昇は、その温室効果によって地球の温暖化をもたらすと言われていました。

木材は、炭酸ガスを固定する上で非常に効果があり、かつ製品を製造するためのエネルギーも小さいため、これからのエコロジーを語る時、よく紹介される材料です。

現在のわが国のサッシの材質を見てみると、アルミニウムがその大半を占めています。また、近年PVC（塩化ビニル）が北海道をはじめ、寒冷地で急速に普及しています。窓材料に木材以外の工業材料がこれほど多く使われている国は、世界中どこにもありません。しかし、アルミサッシや樹脂サッシは再利用することは可能ですが、廃棄されたものをだれが回収するか、どのように再利用するかなどのシステムはまだ確立されていないのが現状です。アルミニウムの場合、再利用するためには大量のエネルギーを必要とします。また、PVCの場合も再利用するためにはエネルギーをかなり使いますし、焼却するにしても有毒ガスを多量に放出します。

前述したように、木材は優れたエコロジー材料です。木材を廃棄するには、CCA等の処理をしていなければ安全に焼却することが可能です。また、土中に廃棄しても腐朽菌などによって分解されます。そのため、木製サッシの優位性について考えた場合、今まで言われていた断熱性、防露性や肌ざわりの良さなどに加えて、環境に優しいことも大きな特徴となります。

昨年に引き続いて、今年も、'97木製サッシフォーラム（フェンスタターク イン 北海道）を開催しました。今年の課題は、健康住宅です。今、木製サッシの需要は横這い状態が続いていますが、最近の健康住宅ブームは、木製サッシ普及を推進する上で追い風となり得ます。そのためには、まず健康住宅とはどのようなものかを知り、また健康に生活する上で、木製サッシがどのような役割を果たせるかを知る必要があります。そこで、次のようなテーマでお二人の講師の方に講演をお願いしました。

まず、健康住宅を設計する立場から、佐藤清氏（株式会社テクノプラン建築事務所、代表取締役）に、「健康住宅への提案」と題して、最近問題になっている空気汚染について解説していただきました。同氏は、アレルギー、アトピー性疾患に対応した住居、雨水利用住宅など、健康住宅やエコロジー住宅の設計を中心に活動され、空気汚染について豊富な経験をお持ちです。

次に、木製サッシを開発する立場から、平間昭光氏（林産試験場、性能部性能開発科研究職員）に、「ウインターガーデンの紹介」と題して、主に、ヨーロッパの木製サッシ、ウインターガーデンの紹介と、最近、林産試験場で研究・開発している木製ウインターガーデンについて解説していただきました。同氏は、木製サッシの開発を手がけ、また最近木製ウインターガーデンの温熱環境について研究されており、これから北海道で木製ウインターガーデンを普及するために活動されています。

講演後、お二人の講師の方と会場に見えられた方々を交えて意見交換会を実施しました。会場には、接着剤や塗料など住宅の空気汚染に関係する製品を扱われている方々も見えられていましたので、貴重な経験や意見をうかがうことができました。

（林産試験場 石井 誠）